



人生が変わる深イイ話

毎週月曜日に放映されている「人生が変わる1分間の深イイ話」。6月21日は“教育特集”でした。その中から、いくつか紹介します。子どもが期末テストに向けて頑張っている傍らで読んでみてください。

漫画家・井上きみどりが語る子供が学校に行く理由

マンガ「子供なんか大キライ!」は、作者の井上きみどりさん自身が長女ポチ、二女ケロの子育て生活で、きみどりさんも母親として成長していく物語を描いたもの。ある日「学校に行きたくない」とだだをこね、「なんで学校に行かなきゃいけないの?」と尋ねる二女ケロに、きみどりさんが言った言葉とは?

「イヤなことがあるからよ」「イヤなことがあったらどうするか?友達にイヤなことをされたらどうするか?」「学校は他の人とかかわり方を身につけるところなんだよ。」

「そのかわり学校で起きたイヤなことは、ゼーンぶ家で私が聞いてあげるのだ。」

魔裟斗 格闘技から学んだもの

K-1 WORLD MAX世界王者に2度輝いた魔裟斗。15年続けた格闘技から、人生においてとても大切なことを学んだという。それは?

「人生は本気で思った事しか起こらない」。初めて優勝した年、2003年の世界大会で、「日本人でも世界王者になれるって事を俺が証明してやる!」と思った。そして、日本人初のK-1世界王者に輝いた。2度目に優勝した年、2008年の世界大会で、「負けたら引退する。だから絶対に勝つ!」と思った。そして、2度目の世界王者となった。「決して結果論ではなく、この2回の大会は絶対に優勝する!という本気の思いで戦った」「人生は本気で思った事しか起こらない」。

ソフトボール上野由岐子投手が教えられた「一流の雑用」

北京オリンピック女子ソフトボール金メダリスト上野由岐子投手は、今でもチーム内で進んでボール磨きやグラウンド整備の雑用を行っている。なぜ、上野は雑用を行うのか?

「単に、ボールを拭いたり、グラウンド整備をしたり、片付けたりするだけが雑用じゃない。重要な事は『思いやり』と『気づき』である」。雑用とは人に言われてやることではない。常に細かい所に目を配り思いやる行動。それは試合中、相手バッターの細かい変化に気づき、優位に勝負することにも役だっている。高校生の時に「一流の選手は雑用も一流なんだ」と教えられ、今でも思いやりの雑用を続けている。

テストの点数が悪かった子供が勉強を好きになる魔法の言葉

教育やしつけの専門家の大島武教授が語る。テストの点数が悪かった子どもにある言葉をかかけるだけで、「子供が勉強を好きになる」という魔法のような言葉があった。その言葉とは?

「へ～、この問題おもしろいね」。テストの点数だけでなく、内容にも興味を持ってあげる。重要なことは、できた部分を褒めることではなく、できなかった問題に興味を持たせることだという。ちなみに大島先生も自分の子どもに試したところ、20番前後だった成績が、常に5番以内に入るようになったという。

今、学校では・・・

- ◆ 「ターゲットノート」に頑張っている全校生徒の姿をうれしく思います。そして、早々と5冊完了者が出ました。2年1組の小林彩希さんです。早速、学校から6冊目のノートを渡しました。
- ◆ 6月30日(水)、テストが終わった日の5・6校時に、KDDIケータイ教室「安心・安全講座」を実施します。昨年度は、ドコモの「携帯安全教室」を実施しましたが、今年度はKDDI主催の講座で、講師の方はわざわざ東京からおいでてください。
- ◆ 7月1日(木)5校時、航空写真を撮る予定です。2つの体育館があるうちに学校全景を撮っておこうと思います。また、その前後の日に、全校生徒の写真も撮る予定にしています。